

平成26年

# 工業統計調査結果

(奈良県)

平成28年5月

奈良県総務部知事公室統計課

# 目 次

利用上の注意	1
<b>I 調査結果の概要（従業者4人以上の事業所）</b>	
1. 概況	9
2. 事業所数	12
3. 従業者数	13
4. 現金給与総額	14
5. 原材料使用額等	15
6. 製造品出荷額等	16
7. 付加価値額	18
8. 年末在庫額及び有形固定資産投資総額（従業者30人以上の事業所）	20
9. 市町村別の状況	21
10. 全国における奈良県の状況	25
<b>II 統計表（従業者4人以上の事業所）</b>	
第1表 産業中分類別累年比較統計表	27
第2表 産業中分類別統計表	33
第3表 産業中分類別統計表（従業者30人以上の事業所）	36
第4表 従業者規模別統計表	48
第5表 産業細分類別統計表	58
第6表 品目別統計表	82
第7表 市町村別統計表	107
第8表 市町村別統計表（従業者30人以上の事業所）	110
第9表 市町村別中分類別統計表	112
参考1表 年次別統計表	152
参考2表 産業中分類別統計表	153
参考3表 従業者規模別統計表	154
参考4表 産業3類型別統計表	155
参考5表 市町村別統計表	156
参考6表 都道府県別統計表	157
参考7表 年次別比較表（全事業所）	158

## 利用上の注意

### 1. 調査の目的

工業統計調査は、工業の実態を明らかにすることを目的としています。

### 2. 調査の根拠

工業統計調査は、統計法（平成19年法律第53号）に基づく基幹統計調査であり、工業統計調査規則（昭和26年通商産業省令第81号）によって実施されます。

### 3. 調査日

平成26年12月31日

### 4. 調査対象

工業統計調査の範囲は、日本標準産業分類（平成19年総務省告示第618号）に掲げる「大分類E—製造業」に属する事業所（国に属する事業所を除く。）です。

### 5. 調査の方法

工業統計調査は、従業者30人以上の事業所（製造、加工又は修理を行っていない本社又は本店を除く。）については「工業調査票甲」、従業者29人以下の事業所（製造、加工又は修理を行っていない本社又は本店を除く。）については「工業調査票乙」を用い、報告者（事業所の管理責任者（本社一括調査企業に属する事業所にあつては、本社一括調査企業を代表する者。））の自計により行っています。

### 6. 産業分類

日本標準産業分類の改定に伴い、平成26年調査より工業統計調査用産業分類も改定した。改定内容については表1参照。

(1) 工業統計調査用産業分類は、原則として日本標準産業分類に準拠している。例外については次のとおりです。

工業統計調査用産業分類	日本標準産業分類
1421 洋紙・機械すき和紙(1421洋紙製造業、1423機械すき和紙製造業を統合)	1421 洋紙製造業 1423 機械すき和紙製造業

(2) 表、グラフなどで用いる産業名の略称は以下のとおりです。

産業中分類名	略称	産業中分類名	略称
09 食料品製造業	食料	21 窯業・土石製品製造業	窯業
10 飲料・たばこ・飼料製造業	飲料	22 鉄鋼業	鉄鋼
11 繊維工業	繊維	23 非鉄金属製造業	非鉄
12 木材・木製品製造業(家具を除く)	木材	24 金属製品製造業	金属
13 家具・装備品製造業	家具	25 はん用機械器具製造業	は用
14 パルプ・紙・紙加工品製造業	紙パ	26 生産用機械器具製造業	生産
15 印刷・同関連業	印刷	27 業務用機械器具製造業	業務
16 化学工業	化学	28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	電子
17 石油製品・石炭製品製造業	石油	29 電気機械器具製造業	電気
18 プラスチック製品製造業(別掲を除く)	プラ	30 情報通信機械器具製造業	情報
19 ゴム製品製造業	ゴム	31 輸送用機械器具製造業	輸送
20 なめし革・同製品・毛皮製造業	皮革	32 その他の製造業	その他

(3) 産業3類型別の区分及び略称は、次のとおりです。

区分名	略称	産業中分類
基礎素材型産業	基礎素材型	木材、紙パ、化学、石油、プラ、ゴム、窯業、鉄鋼、非鉄、金属
加工組立型産業	加工組立型	は用、生産、業務、電子、電気、情報、輸送
生活関連型産業	生活関連型	食料、飲料、繊維、家具、印刷、皮革、その他

(4) 「中分類18 プラスチック製品製造業(別掲を除く)」の別掲については、次のとおりです。

製造品名	分類	製造品名	分類
家具・装備品	13	がん具、運動用具	325
プラスチック製版	1521	ペン・鉛筆・絵画用品・その他の事務用品	326
写真フィルム(乾板を含む)	1695	漆器	3271
手袋	2051	畳	3282
耐火物	215	うちわ・扇子・ちようちん	3283
と石	2179	ほうき、ブラシ	3284
模造真珠	2199	喫煙用具(貴重品・宝石製を除く)	3285
歯車	2531	洋傘・和傘・同部分品	3289
目盛りのついた三角定規	2739	魔法瓶	3289
注射筒	2741	看板、標識機	3292
義歯	2744	パレット	3293
装身具・装飾品・ボタン・同関連品(貴金属・宝石製を除く)	322	モデル、模型	3294
かつら	3229	工業用模型	3295
時計側	3231	レコード	3296
楽器	324	眼鏡	3297

## 7. 事業所の産業の決定方法

事業所を産業別に集計するための産業の決定方法は、次のとおりです。

(1) 一般的な方法

- ① 製造品が単品のみの事業所については、品目6桁番号の上4桁で産業細分類を決定します。
- ② 製造品が複数の品目にわたる事業所の場合は、まず、上2桁の番号(中分類)を同じくする品目の製造品出荷額等をそれぞれ合計し、その額の最も大きいもので2桁番号を決定します。

次に、その決定された2桁の番号のうち、前記と同様な方法で3桁番号（小分類）、さらに4桁番号（細分類）を決定し、最終的な産業格付けとします。

## (2) 特殊な方法

上記の方法以外に、原材料、作業工程、機械設備等により、産業を決定しているものがあります。具体的には、「中分類22 鉄鋼業」に属する「高炉による製鉄業」、「製鋼・製鋼圧延業（転炉・電気炉を含む）」、「熱間圧延業」、「冷間圧延業」、「冷間ロール成型形鋼製造業」、「鋼管製造業」、「伸鉄業」、「磨棒鋼製造業」、「引抜鋼管製造業」、「伸線業」及び「その他の製鋼を行わない鋼材製造業」の11産業です。

## 8. 統計表の項目の説明

(1) **事業所数**は、平成26年12月31日現在の数値です。

事業所とは、一般的に工場、製作所、製造所あるいは加工所など、一区画を占めて、主として製造又は加工を行っているものをいいます。

(2) **従業者数**は、平成26年12月31日現在の数値です。

従業者とは、当該事業所で働いている人をいい、他の会社などの別経営の事業所から出向又は派遣されている人（受入者）も含まれます。一方、他の会社などの別経営の事業所へ出向または派遣されている人（送出者）及び臨時雇用者は含まれません。

① 個人事業主及び無給家族従業者とは、業務に従事している個人事業主とその家族で無報酬で常時就業している者をいい、実務にたずさわっていない事業主とその家族で手伝い程度のものは含まれません。

② 常用労働者とは、次のいずれかをいい、「正社員、正職員等」、「パート・アルバイト等」及び「出向・派遣受入者」に分けられます。

ア 期間を決めず、又は1か月を超える期間を決めて雇われている者。

イ 日々又は1か月以内の期間を限って雇われていた者のうち、11月と12月にそれぞれ18日以上雇われた者。

ウ 他の企業から受け入れている出向者（親企業からの出向従業者など）、人材派遣会社からの派遣従業者は、上記に準じます。

エ 重役、理事などの役員のうち、常時勤務して毎月給与の支払を受けている者。

オ 事業主の家族で、その事業所に働いている者のうち、常時勤務して毎月給与の支払を受けている者。

a. 「正社員・正職員等」とは、雇用されている者で一般に「正社員」、「正職員」等と呼ばれている者をいいます。ただし、他企業に出向している者は除きます。

b. 「パート・アルバイト等」とは、一般に「パートタイマー」、「アルバイト」、「嘱託」又はそれに近い名称で呼ばれている者をいいます。

c. 「出向・派遣受入者」とは、他の企業から受け入れている出向者（親企業からの出向従業者など）及び人材派遣会社からの派遣従業者をいいます。

③ 臨時雇用者とは、常用労働者以外の雇用者で、1か月以内の期間を定めて雇用されている者や日々雇用されている者をいいます。

(3) **現金給与総額**は、平成26年1月から12月までの1年間に常用労働者のうち雇用者（「正社員、正職員等」及び「パート・アルバイト等」を言う）に対して支給された基本給、諸手当及び特別に支払われた給与（期末賞与等）の額とその他の給与額との合計です。

その他の給与額とは、常用労働者のうち雇用者に対する退職金又は解雇予告手当、出向・派遣受入者に係る支払額、臨時雇用者に対する給与、出向させている者に対する負担額などをいいます。

(4) **原材料使用額等**は、平成26年1月から12月までの1年間における原材料使用額、燃料使用額、電力使用額、委託生産費、製造等に関連する外注費及び転売した商品の仕入額であり、消費税を含んだ額です。

① 原材料使用額とは、主要原材料、補助材料、購入部分品、容器、包装材料、工場維持用の材料及び消耗品など、実際に製造等に使用した総使用額をいいます。

また、下請工場などに原材料を支給して製造加工を行わせた場合には、支給した原材料の額も含まれます。

② 電力使用額とは、購入した電力の使用額をいい、自家発電は含まれません。

③ 委託生産費とは、原材料又は中間製品を他企業の事業所に支給して製造又は加工を委託した場合、これに支払った加工賃及び支払うべき加工賃をいいます。

④ 製造等に関連する外注費とは、生産設備の保守・点検・修理、機械・装置の操作、製品に組み込まれるソフトウェアの開発など、事業所収入に直接関連する外注費用をいいます。

⑤ 転売した商品の仕入額とは、平成26年1年間において、実際に売り上げた転売品（他から仕入れて又は受け入れてそのまま販売したもの）に対応する仕入額をいいます。

(5) **製造品出荷額等**は、平成26年1月から12月までの1年間における製造品出荷額、加工賃収入額、くず廃物の出荷額及びその他収入額の合計であり、消費税及び内国消費税額を含んだ額をいいます。

① 製造品の出荷とは、当該事業所の所有に属する原材料によって製造されたもの（原材料を他に支給して製造させたものを含む）を、平成26年中に当該事業所から出荷した場合の工場出荷金額をいいます。また、次のものも製造品出荷に含まれます。

ア 同一企業に属する他の事業所へ引き渡したもの

イ 自家使用されたもの（当該事業所において最終製品として使用されたもの）

ウ 委託販売に出したもの（販売済みでないものを含み、平成26年中に返品されたものを除く）

- ② 加工賃収入額とは、平成26年中に他企業の所有に属する主要原材料によって製造し、あるいは他企業の所有に属する製品又は半製品に加工、処理を加えた場合、これに対して受け取った又は受け取るべき加工賃をいいます。
- ③ その他収入額とは、上記①、②及びくず廃物の出荷額以外（例えば、転売収入（仕入れて又は受け入れてそのまま販売したもの）、修理料収入額、冷蔵保管料及び自家発電の余剰電力の販売収入額等）の収入額をいいます。
- (6) **製造品、半製品及び仕掛品、原材料及び燃料の在庫額**（従業者30人以上の事業所）は、事業所の所有に属するものを帳簿価額によって記入したものであり、原材料を他に支給して製造される委託生産品も含まれます。
- (7) **有形固定資産**（従業者30人以上の事業所）の額は、平成26年1月から12月までの1年間における数値であり、帳簿価額によっています。
- ① 有形固定資産の取得額等には、次の区分があります。
- ア 土地
  - イ 建物及び構築物（土木設備、建物附属設備を含みます）
  - ウ 機械及び装置（附属設備を含みます）
  - エ 船舶、車両、運搬具、耐用年数1年以上の工具、器具、備品等
- ② 建設仮勘定の増加額とは、この勘定の借方に加えられた額をいい、減少額とは、この勘定から他の勘定に振り替えられた額をいいます。
- ③ 有形固定資産の除却額とは、有形固定資産の売却、撤去、滅失及び同一企業に属する他の事業所への引き渡しなどの額をいいます。
- ④ 有形固定資産の投資総額
- 投資総額＝取得額＋建設仮勘定の年間増減（増加額－減少額）
- (8) **リース契約による契約額及び支払額**（従業者30人以上の事業所）
- ① リースとは、賃貸借契約であって、物件を使用する期間が1年を超え、契約期間中は原則として中途解約のできないものをいいます。
- なお、リース取引に係る会計処理を通常の売買取引に係る方法に準じて行っている場合は、有形固定資産の取得となります。
- ② リース契約額とは、新規に契約したリースのうち、平成26年1月から12月までにリース物件が納入、設置されて検収が完了し、物件借受書を交付した物件に対するリース物件の契約額をいい、消費税額を含んだ額です。
- ③ リース支払額とは、平成26年1月から12月までにリース物件使用料として実際に支払った月々のリース料の年間合計金額をいい、消費税額を含んだ額です。したがって、平成26年以前にリース契約した物件に対して、当年において支払われたリース料を含みます。

(9) 付加価値額（粗付加価値額）は、下記算式により算出しています。

① 従業者30人以上

付加価値額

$$\begin{aligned} &= \text{製造品出荷額等} + (\text{製造品年末在庫額} - \text{製造品年初在庫額}) \\ &\quad + (\text{半製品及び仕掛品年末価額} - \text{半製品及び仕掛品年初価額}) \\ &\quad - (\text{消費税を除く内国消費税額} (*) + \text{推計消費税額}) \\ &\quad - \text{原材料、燃料、電力の使用額等} - \text{減価償却額} \end{aligned}$$

② 従業者29人以下

粗付加価値額

$$\begin{aligned} &= \text{製造品出荷額等} - (\text{消費税を除く内国消費税額} (*) + \text{推計消費税額}) \\ &\quad - \text{原材料、燃料、電力の使用額等} \end{aligned}$$

\*消費税を除く内国消費税額

=酒税、たばこ税、揮発油税及び地方揮発油税の納付税額又は納付すべき税額の合計

## 9. 記号及び注記

各項目の金額は、単位未満を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。

なお、比率は、小数点以下第2位で四捨五入しました。

該当数字がないもの及び分母が0のため計算できないものは「-」としました。また、数値がマイナスのものは「△」で表しています。

「x」は、集計対象となる事業所が1又は2であるため、集計結果をそのまま公表すると個々の報告者の秘密が漏れるおそれがある場合に該当数値を秘匿した箇所です。また、集計対象が3以上の事業所に関する数値であっても、集計対象が1又は2の事業所の数値が合計との差引きで判明する箇所は、併せて「x」としました。

## 10. 本書において年次別に表章した工業統計については、以下の点に留意してください。

平成19年調査から、製造業を営む事業所における製造以外の活動についても把握する目的で、製造品出荷額等に「その他収入額」が、原材料使用額等に「製造等に関連する外注費」及び「転売した商品の仕入額」が調査項目として追加されました。そのため、「製造品出荷額等」、「付加価値額」、「原材料使用額等」については平成18年以前の数値とは接続しません。

## 11. その他の注意事項

(1) 時系列表中の平成23年の数値は、「平成24年経済センサスー活動調査」の調査結果のうち、工業統計調査の範囲に合わせるため以下の全てに該当する製造事業所について集計したもので、斜体で表章しています。



- ・従業員4人以上の製造事業所であること
- ・管理、補助的経済活動のみを行う事業所ではないこと
- ・製造品目別に出荷額が得られた事業所であること

平成23年における数値は、「平成24年経済センサスー活動調査」の調査時点が平成24年2月1日現在であることなど、厳密には工業統計調査の数値と連結しない部分があります。数値の解釈に当たっては、留意してください。

(主な留意点)

- ① 平成23年の「従業員数総数」は、工業統計調査の定義に合致させるため「平成24年経済センサスー活動調査」の数値を組みかえて作成しています（従業員数総数－臨時雇用者－別経営の事業所へ出向又は派遣している人（送出者）＋出向受入者＋派遣受入者）。  
また、経済センサスー活動調査の常用労働者には別経営の事業所へ出向又は派遣している人（送出者）が含まれているため、内訳（「個人事業主及び無給家族従業員」と「常用労働者」）を個別に足した数値と合計とは一致しません。
- ② 平成23年の現金給与総額には、出向させている者に対する負担額は含んでいません。
- ③ 「平成24年経済センサスー活動調査」の調査時点は調査期間の翌年の2月1日で、事業所数・従業員数関連の数値は2月1日現在の数値です（工業統計調査の調査時点は調査期間の末日（12月31日））。

(2) この報告書に掲載された数値を他に引用・転載する場合は、「平成26年工業統計調査結果報告書（奈良県総務部知事公室統計課）」による旨明記してください。

なお、この結果表は本県で独自に集計した数値であり、経済産業省の公表数値と相違する場合があります。

(3) 問い合わせ先

〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30

奈良県総務部知事公室統計課 生活・産業統計係

電話（直通）0742-27-8452

表 1 工業統計調査用産業分類表新旧対応表

旧	新	変更内容
12 木材・木製品製造業（家具を除く）	12 木材・木製品製造業（家具を除く）	
121 製材業、木製品製造業	121 製材業、木製品製造業	
1211 一般製材業	1211 一般製材業	
1212 単板（ベニヤ）製造業	1212 単板（ベニヤ）製造業	
1213 床板製造業		
1214 木材チップ製造業	▶ 1213 木材チップ製造業	分類番号変更
1219 その他の特殊製材業	1219 その他の特殊製材業	
122 造作材・合板・建築用組立材料製造業	122 造作材・合板・建築用組立材料製造業	
1221 造作材製造業（建具を除く）	1221 造作材製造業（建具を除く）	
1222 合板製造業	1222 合板製造業	
1223 集成材製造業	1223 集成材製造業	
1224 建築用木製組立材料製造業	1224 建築用木製組立材料製造業	
1225 パーティクルボード製造業	1225 パーティクルボード製造業	
1226 繊維板製造業	1226 繊維板製造業	
1227 銘木製造業	▶ 1227 銘木製造業	
	1228 床板製造業	分類番号変更
24 金属製品製造業	24 金属製品製造業	
243 暖房装置・配管工事用附属品製造業	243 暖房・調理等装置、配管工事用附属品製造業	名称変更
2431 配管工事用附属品製造業（バルブ、コックを除く）	2431 配管工事用附属品製造業（バルブ、コックを除く）	
2432 ガス機器・石油機器製造業	2432 ガス機器・石油機器製造業	
2433 温風・温水暖房装置製造業	2433 温風・温水暖房装置製造業	
2439 その他の暖房・調理装置製造業（電気機械器具、ガス機器、石油機器を除く）	2439 その他の暖房・調理装置製造業（電気機械器具、ガス機器、石油機器を除く）	

# I 調査結果の概要

(従業員4人以上の事業所)

# 1 概況

**\* 前年に比べて、  
製造品出荷額等は増加。事業所数、従業者数、付加価値額は減少。**

従業者4人以上の事業所では、

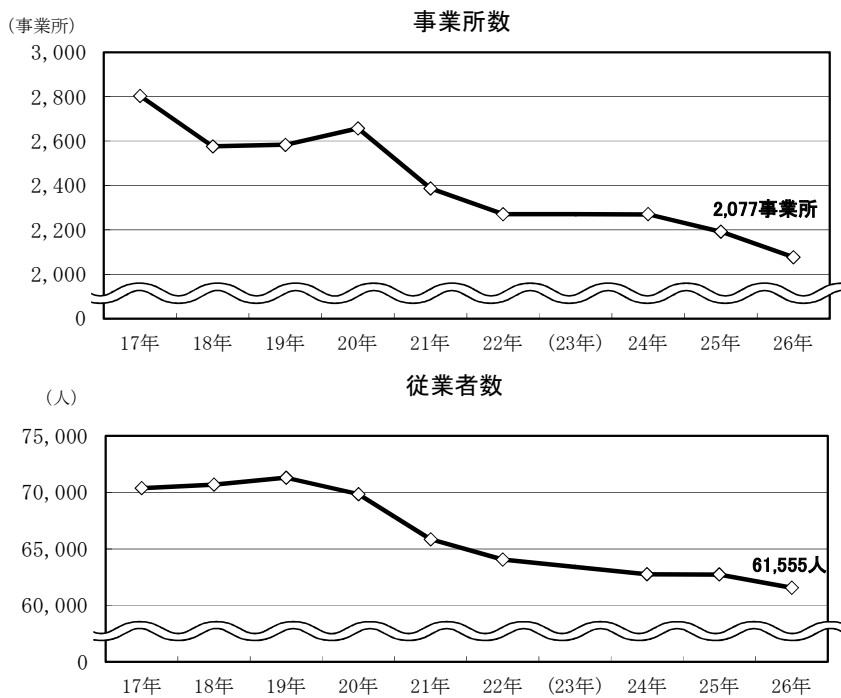
- (1) 事業所数は2,077事業所で、前年に比べて115事業所減少(△5.2%)しました。
- (2) 従業者数は61,555人で、前年と比べて1,170人減少(△1.9%)しました。
- (3) 製造品出荷額等は1兆8,969億円で、前年と比べて487億円増加(2.6%)しました。
- (4) 付加価値額は6,429億円で、前年と比べて18億円減少(△0.3%)しました。

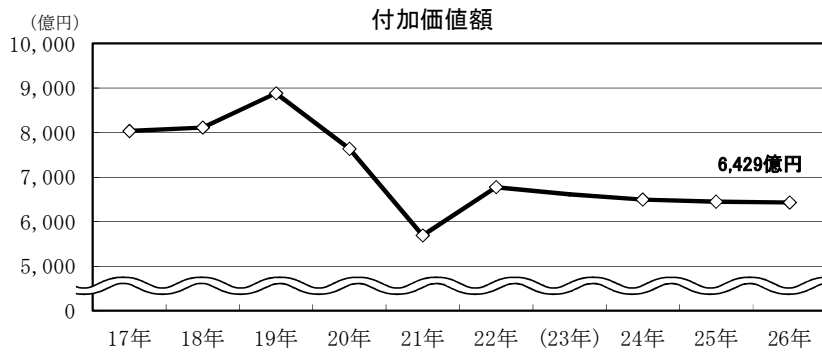
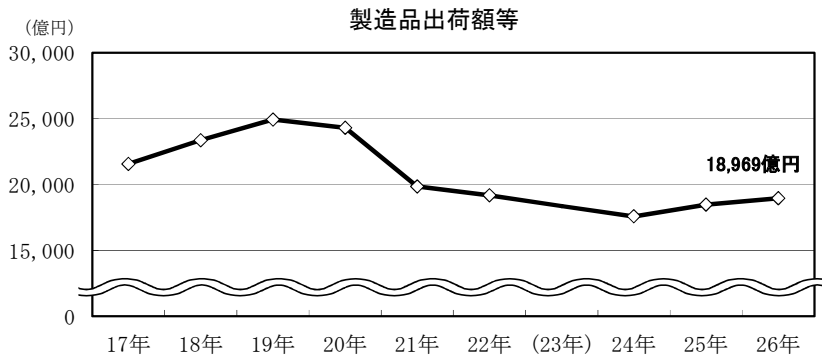
主要4指標(前年比)

	平成26年	平成25年	前年比	
			増減数	増減率
事業所数	2,077事業所	2,192事業所	△115事業所	△5.2%
従業者数	61,555人	62,725人	△1,170人	△1.9%
製造品出荷額等	189,688,132万円	184,819,517万円	4,868,615万円	2.6%
付加価値額	64,292,589万円	64,470,652万円	△178,063万円	△0.3%

主要4指標の過去10年間の推移をみると、事業所数と従業者数は、減少傾向にあります。製造品出荷額等は、平成17年から平成19年にかけて増加した後、平成20年から減少傾向が続いていましたが、平成25年からは増加傾向が続いています。付加価値額は、平成17年から平成19年にかけて増加した後、平成20年・21年と減少し、平成22年に一端増加したものの以降は減少傾向にあります。

第1図 主要4指標の過去10年の推移





**\* 奈良県の全国順位は、  
事業所数32位、従業者数36位、製造品出荷額等36位、付加価値額36位。**

従業者4人以上の事業所では、

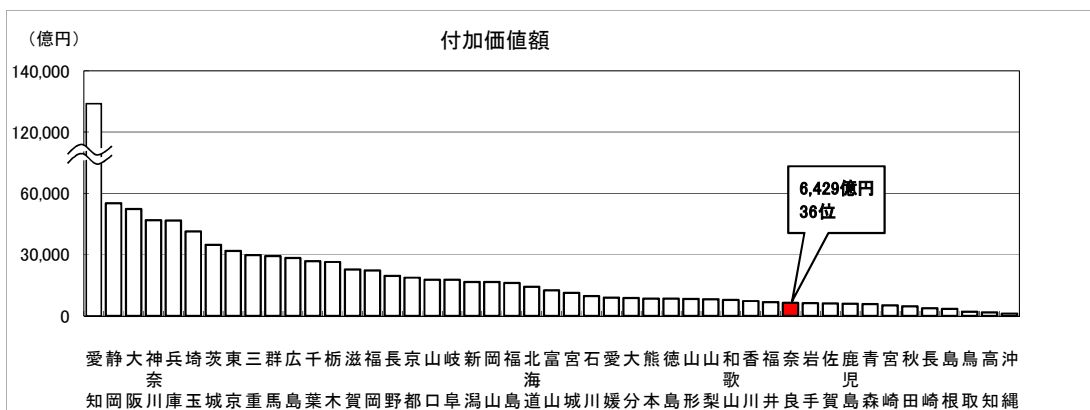
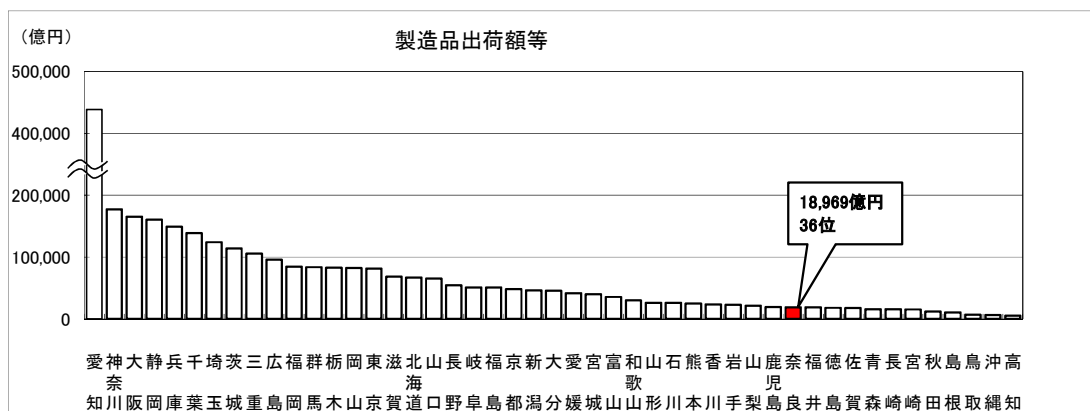
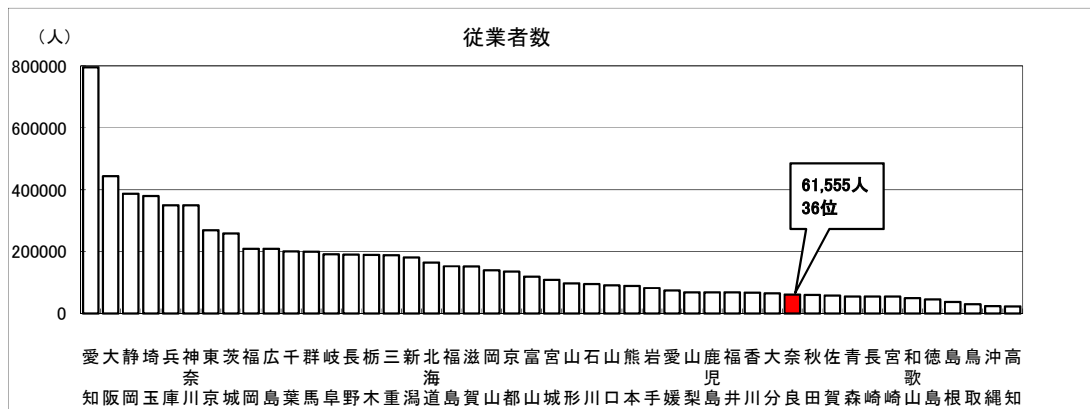
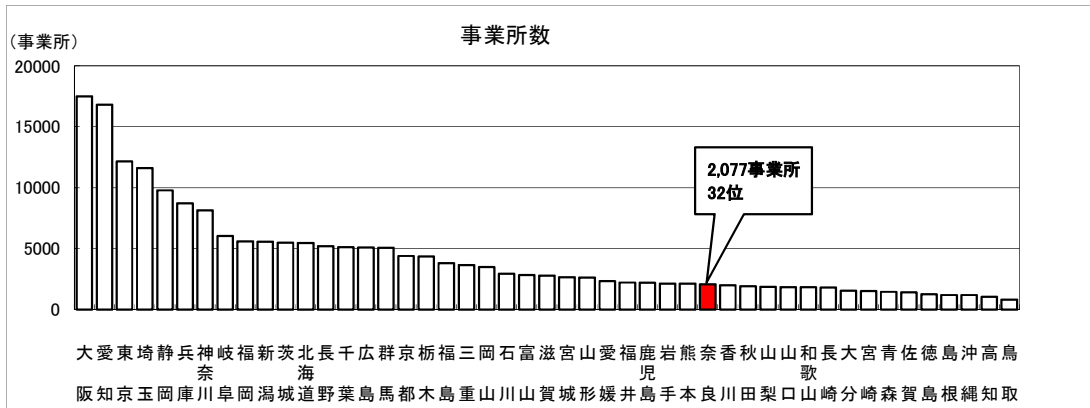
- (1) 事業所数の全国シェアは1.0%、全国順位は32位となっています。
- (2) 従業者数の全国シェアは0.8%、全国順位は36位となっています。
- (3) 製造品出荷額等の全国シェアは0.6%、全国順位は36位となっています。
- (4) 付加価値額の全国シェアは0.7%、全国順位は36位となっています。

主要4指標(全国との比較)

	年度	奈良県	全国	シェア	順位
事業所数	H26	2,077 事業所	202,410 事業所	1.0 %	32 位
	H25	2,192 事業所	208,029 事業所	1.1 %	30 位
従業者数	H26	61,555 人	7,403,269 人	0.8 %	36 位
	H25	62,725 人	7,402,984 人	0.8 %	36 位
製造品出荷額等	H26	18,969 億円	3,051,400 億円	0.6 %	36 位
	H25	18,482 億円	2,920,921 億円	0.6 %	35 位
付加価値額	H26	6,429 億円	922,889 億円	0.7 %	36 位
	H25	6,447 億円	901,489 億円	0.7 %	36 位

第2図 主要4指標の全国順位

資料：経済産業省「平成26年工業統計」



## 2 事業所数

- \* 事業所数は2,077事業所で、前年と比べて115事業所減少。
- \* 従業者4～9人規模の事業所数が5割弱を占める。

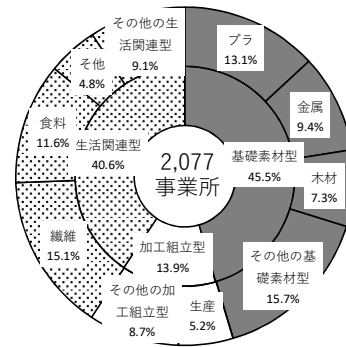
### (1) 産業別の状況

平成26年の従業者4人以上の事業所数は2,077事業所です。産業中分類別の構成比をみると、繊維工業15.1%(313事業所)が最も多く、次いでプラスチック製品製造業13.1%(273事業所)、食料品製造業11.6%(240事業所)、金属製品製造業9.4%(196事業所)、木材・木製品製造業7.3%(152事業所)の順となっています。

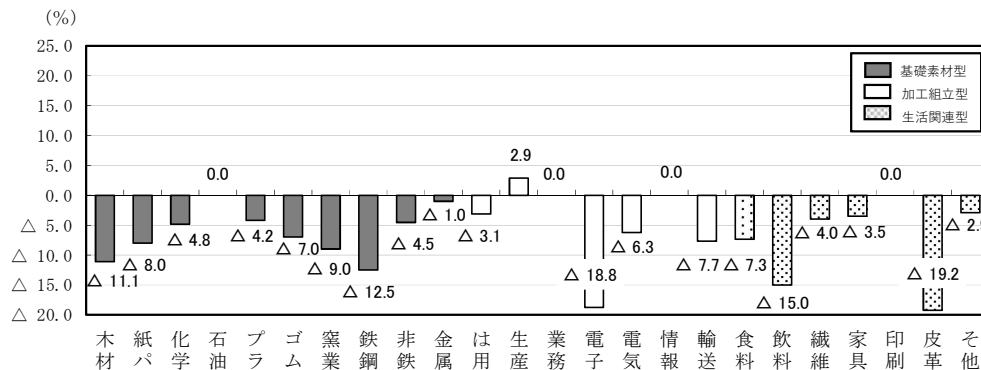
産業類型別の構成比をみると、基礎素材型45.5%(945事業所)が最も多く、次いで生活関連型40.6%(844事業所)、加工組立型13.9%(288事業所)となっています。

前年と比べると、県全体で5.2%減少(△115事業所)となりました。産業中分類別の増加率については、生産用機械器具製造業(2.9%、3事業所)が最も大きくなっています。減少率については、なめし革・同製品・毛皮製造業(△19.2%、△5事業所)が最も大きく、次いで電子部品・デバイス・電子回路製造業(△18.8%、△3事業所)、飲料・たばこ・飼料製造業(△15.0%、△6事業所)となっています。

第3図 産業中分類別事業所数の構成比(%)  
(従業者4人以上の事業所)



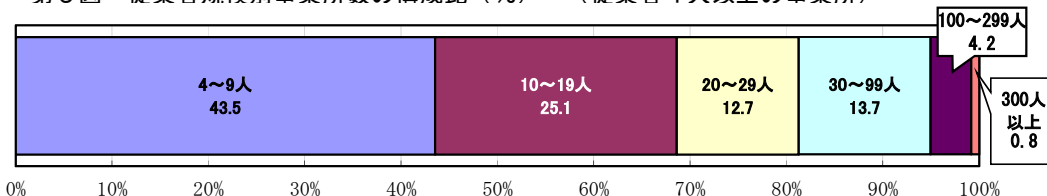
第4図 産業中分類別事業所数の前年比(%) (従業者4人以上の事業所)



### (2) 従業者規模別の状況

従業者規模別事業所数の構成比をみると、4～9人規模43.5%(904事業所)が最も多く約5割弱を占め、10～19人規模25.1%(521事業所)、30～99人規模13.7%(284事業所)、20～29人規模12.7%(263事業所)の順となっています。

第5図 従業者規模別事業所数の構成比(%) (従業者4人以上の事業所)



### 3 従業者数

- \* 従業者数は61,555人で、前年と比べて1,170人減少。
- \* 1事業所当たり従業者数は30人。産業別では、業務用機械器具製造業(135人)、電子部品・デバイス・電子回路製造業(132人)が多い。

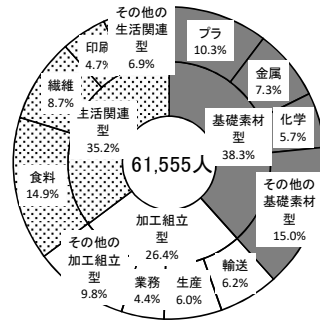
#### (1) 産業別の状況

平成26年の従業者4人以上の事業所の従業者数は61,555人です。産業中分類別の構成比をみると、食料品製造業14.9%(9,189人)が最も多く、次いでプラスチック製品製造業10.3%(6,353人)、繊維工業8.7%(5,338人)の順となっています。

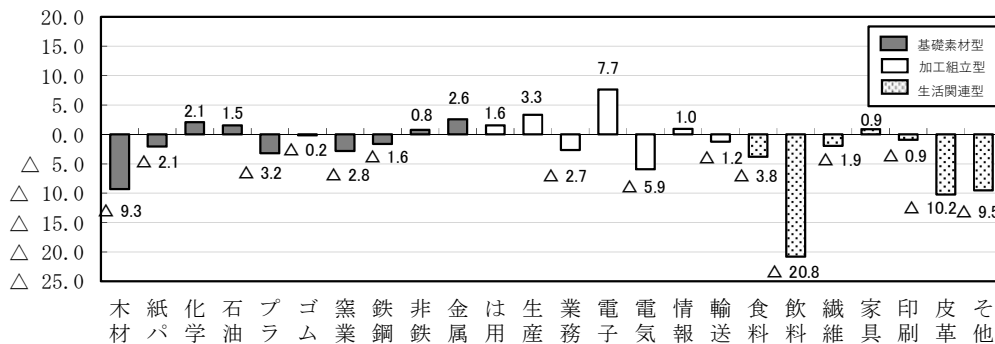
産業類型別の構成比をみると、基礎素材型38.3%(23,606人)が最も多く、次いで生活関連型35.2%(21,678人)、加工組立型26.4%(16,271人)となっています。

前年と比べると、県全体で1.9%減少(△1,170人)しました。産業中分類別の増加率については、電子部品・デバイス・電子回路製造業(7.7%、122人)が最も大きく、次いで生産用機械器具製造業(3.3%、119人)となっています。減少率については、飲料・たばこ・飼料製造業(△20.8%、△124人)が最も大きく、次いでなめし革・同製品・毛皮製造業(△10.2%、△38人)となっています。

第6図 産業中分類別従業者数の構成比(%)  
(従業者4人以上の事業所)

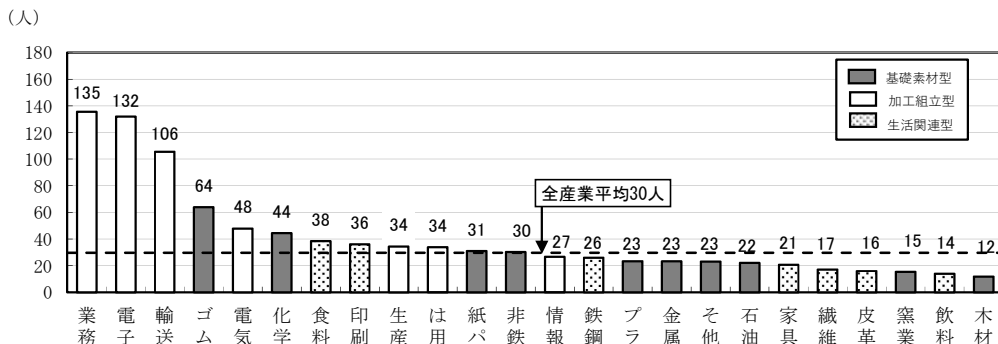


第7図 産業中分類別従業者数の前年比(%) (従業者4人以上の事業所)



1事業所当たり従業者数は全産業平均で30人です。産業中分類別にみると、業務用機械器具製造業(135人)が最も多く、次いで電子部品・デバイス・電子回路製造業(132人)、輸送用機械器具製造業(106人)、ゴム製品製造業(64人)の順となっており、上位3産業は加工組立型が占めています。

第8図 産業中分類別の1事業所当たり従業者数 (従業者4人以上の事業所)

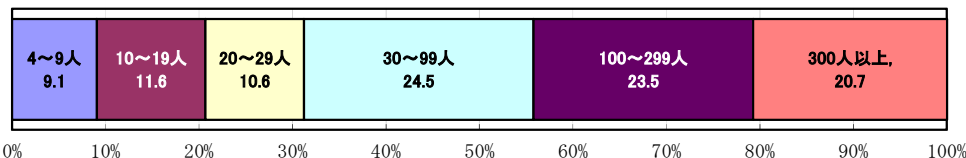




(2) 従業者規模別の状況

従業者規模別従業者数の構成比をみると、30～99人規模24.5% (15,109人)が最も多く、100～299人規模23.5% (14,472人)、次いで300人以上規模20.7% (12,749人)の順となっています。

第9図 従業者規模別従業者数の構成比 (%) (従業者4人以上の事業所)



4 現金給与総額

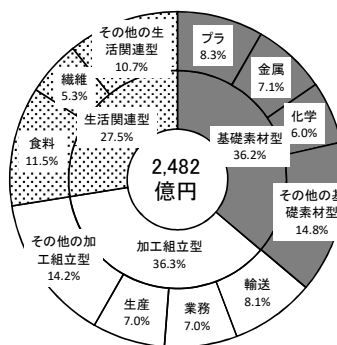
- \* 現金給与総額は2,482億円で、前年と比べて3.5%増加。
- \* 従業者1人当たり現金給与総額は403万円。産業別では電気機械器具製造業(722万円)、業務用機械器具製造業(645万円)、電子部品・デバイス・電子回路製造業(606万円)が多い。

(1) 産業別の状況

平成26年の従業者4人以上の事業所の現金給与総額は2,482億円です。産業中分類別の構成比をみると、食料品製造業11.5% (285億円)が最も多く、次いでプラスチック製品製造業8.3% (207億円)、輸送用機械器具製造業8.1% (201億円)の順となっています。

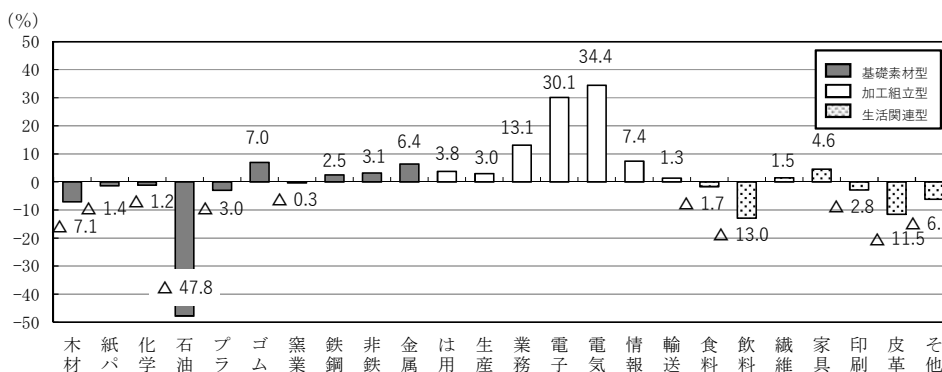
産業類型別の構成比をみると、加工組立型36.3% (900億円)、次いで基礎素材型が最も多く36.2% (899億円)、生活関連型27.5% (683億円)となっています。

第10図 産業中分類別現金給与総額の構成比 (%) (従業者4人以上の事業所)



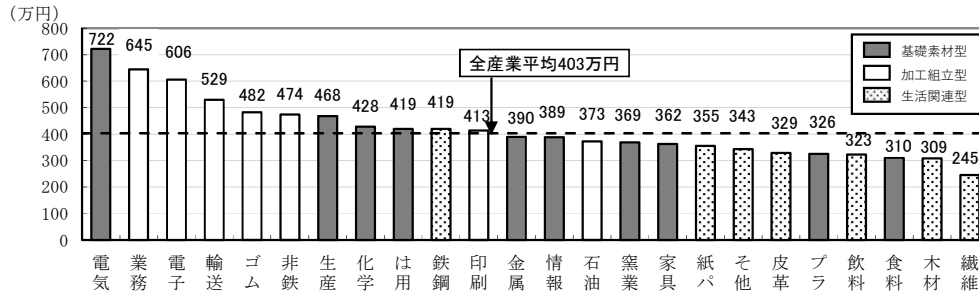
前年と比べると、県全体で3.5%増加(84億円)しました。産業中分類別の増加率については、電気機械器具製造業34.4% (40億円)が最も大きく、次いで電子部品・デバイス・電子回路製造業30.1% (24億円)、業務用機械器具製造業13.1% (20億円)となっています。減少率については、石油製品・石炭製品製造業△47.8% (4億円)が最も大きくなっています。

第11図 産業中分類別現金給与総額の前年比 (%) (従業者4人以上の事業所)



従業者1人当たり現金給与総額は全産業平均で403万円です。産業中分類別にみると、電気機械器具製造業(722万円)が最も多く、次いで業務用機械器具製造業(645万円)、電子部品・デバイス・電子回路製造業(606万円)、輸送用機械器具製造業(529万円)の順となっています。

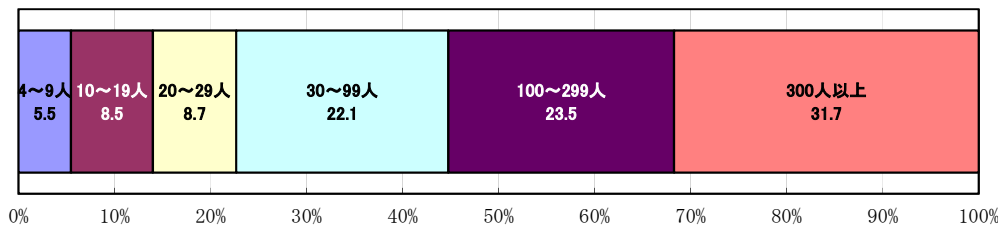
第12図 産業中分類別の従業者1人当たり現金給与総額 (従業者4人以上の事業所)



(2) 従業者規模別の状況

従業者規模別現金給与総額の構成比をみると、300人以上規模31.7%(787億円)が最も多く、次いで100~299人規模23.5%(583億円)、30~99人規模22.1%(548億円)の順となっています。

第13図 従業者規模別現金給与総額の構成比 (%) (従業者4人以上の事業所)



5 原材料使用額等

\* 原材料使用額等は1兆1,817億円で、前年と比べて3.6%増加。  
 \* 産業別では、電気機械器具製造業(2,053億円)、輸送用機械器具製造業(1,311億円)、食料品製造業(1,203億円)が多い。

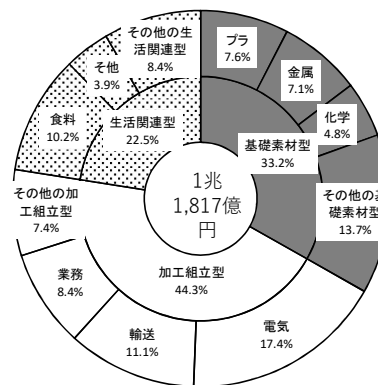
(1) 産業別の状況

平成26年の従業者4人以上の事業所の原材料使用額等は1兆1,817億円です。産業中分類別の構成比をみると、電気機械器具製造業17.4%(2,053億円)が最も多く、次いで輸送用機械器具製造業11.1%(1,311億円)、食料品製造業10.2%(1,203億円)、業務用機械器具製造業8.4%(992億円)、プラスチック製品製造業7.6%(899億円)の順となっています。

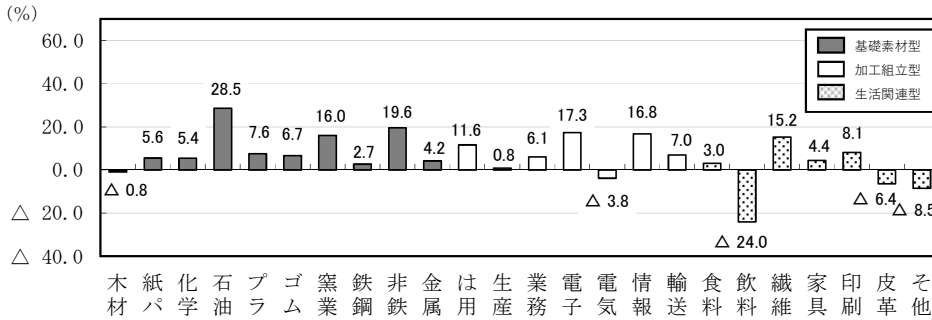
産業類型別の構成比をみると、加工組立型が最も多く44.3%(5,235億円)、次いで基礎素材型33.2%(3,927億円)、生活関連型22.5%(2,656億円)となっています。

前年と比べると、県全体で3.6%増加(415億円)しました。産業中分類別の増加率については、石油製品・石炭製品製造業28.5%(20億円)が最も大きく、次いで非鉄金属製造業19.6%(25億円)、電子部品・デバイス・電子回路製造業17.3%(7億円)の順となっています。減少率については、飲料・たばこ・飼料製造業△24.0%(△11億円)が最も大きくなっています。

第14図 産業中分類別原材料使用額等の構成比 (%) (従業者4人以上の事業所)



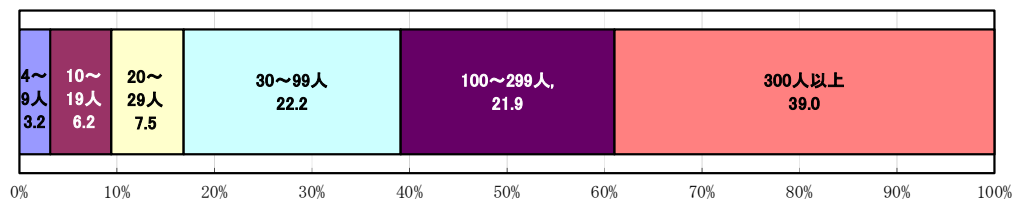
第15図 産業中分類別原材料使用額等の前年比(%) (従業者4人以上の事業所)



(2) 従業者規模別の状況

従業者規模別原材料使用額等の構成比をみると、300人以上規模39.0%(4,605億円)が最も多く、次いで30~99人規模22.2%(2,629億円)、100~299人規模21.9%(2,591億円)の順となっています。

第16図 従業者規模別原材料使用額等の構成比(%) (従業者4人以上の事業所)



6 製造品出荷額等

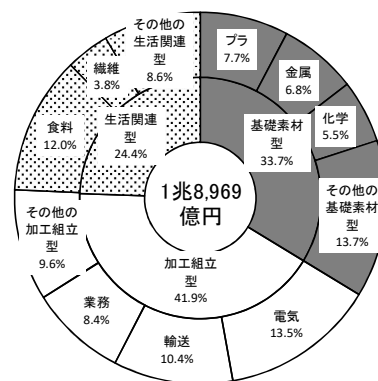
\* 製造品出荷額等は1兆8,969億円で、前年と比べて2.6%増加。  
 \* 1事業所当たり製造品出荷額等は9億円。産業別では、業務用機械器具製造業(80億円)、電気機械器具製造業(57億円)が多い。

(1) 産業別の状況

平成26年の従業者4人以上の事業所の製造品出荷額等は1兆8,969億円です。産業中分類別の構成比をみると、電気機械器具製造業13.5%(2,561億円)が最も多く、次いで食料品製造業12.0%(2,282億円)、輸送用機械器具製造業10.4%(1,965億円)の順となっています。

産業類型別の構成比をみると、加工組立型が最も多く41.9%(7,953億円)、次いで基礎素材型33.7%(6,392億円)、生活関連型24.4%(4,624億円)となっています。

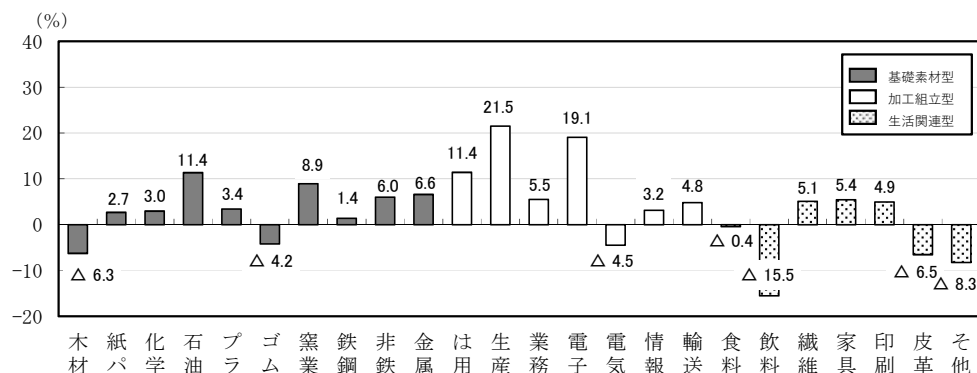
第17図 産業中分類別製造品出荷額等の構成比(%) (従業者4人以上の事業所)



(2) 従業者規模別の状況

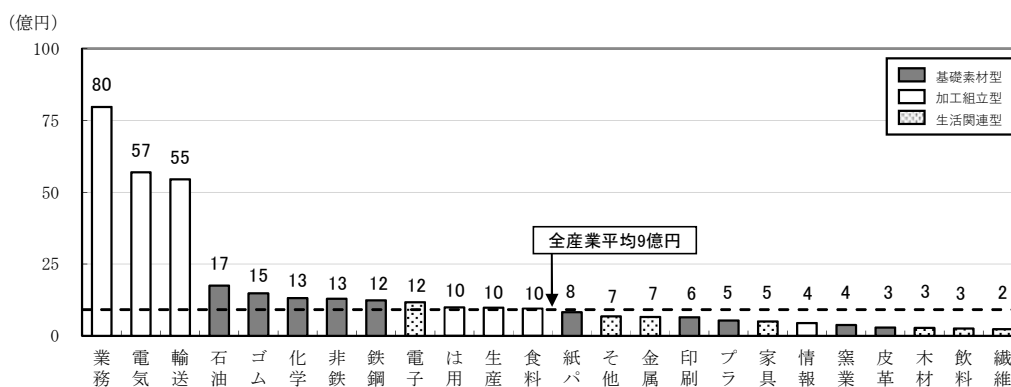
前年と比べると、県全体で2.6%増加(487億円)しました。産業中分類別の増加率については、生産用機械器具製造業(21.5%、186億円)が最も大きく、次いで電子部品・デバイス・電子回路製造業(19.1%、24億円)、はん用機械器具製造業(11.4%、63億円)、石油製品・石炭製品製造業(11.4%、11億円)の順となっています。減少率については、飲料・たばこ・飼料製造業(△15.5%、16億円)が最も大きく、次いでその他製造業(△8.3%、61億円)となっています。

第18図 産業中分類別製造品出荷額等の前年比(%) (従業者4人以上の事業所)



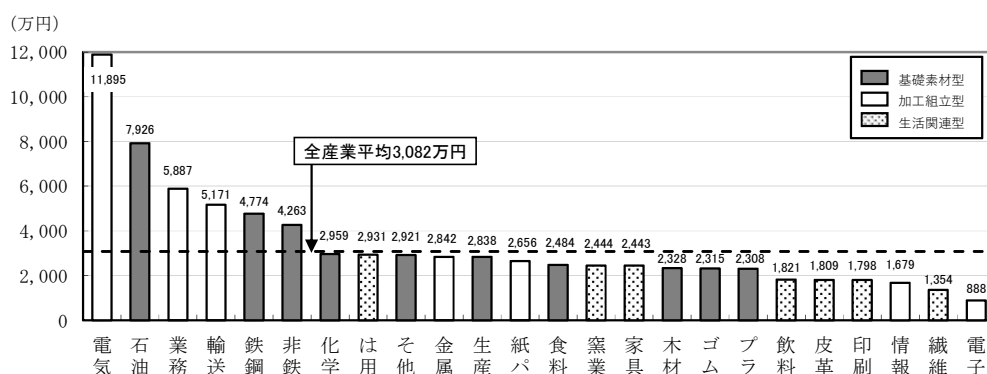
1事業所当たり製造品出荷額等は全産業平均で9億円です。産業中分類別にみると、業務用機械器具製造業(80億円)が最も多く、次いで電気機械器具製造業(57億円)、輸送用機械器具製造業(55億円)、石油製品・石炭製品製造業(17億円)の順となっており、上位3産業は加工組立型が占めています。

第19図 産業中分類別の1事業所当たり製造品出荷額等 (従業者4人以上の事業所)



従業者1人当たり製造品出荷額等は全産業平均で3,082万円です。産業中分類別にみると、電気機械器具製造業(1億1,895万円)が最も多く、次いで、石油製品・石炭製品製造業(7,926万円)、業務用機械器具製造業(5,887万円)、輸送用機械器具製造業(5,171万円)の順となっています。

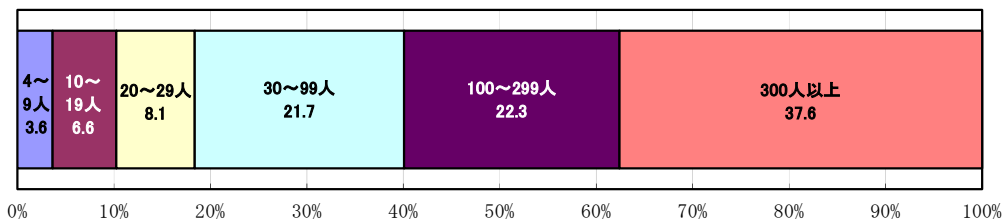
第20図 産業中分類別の従業者1人当たり製造品出荷額等 (従業者4人以上の事業所)



(2) 従業者規模別の状況

従業者規模別製造品出荷額等の構成比をみると、300人以上規模37.6%(7,132億円)が最も多く、次いで100～299人規模22.3%(4,232億円)、30～99人規模21.7%(4,118億円)の順となっています。

第21図 従業者規模別製造品出荷額等の構成比(%) (従業者4人以上の事業所)



7 付加価値額

\* 付加価値額は6,429億円で、前年と比べて0.3%の減少。  
 \* 1事業所当たり付加価値額は3億円。産業別では業務用機械器具製造業(27億円)が多い。

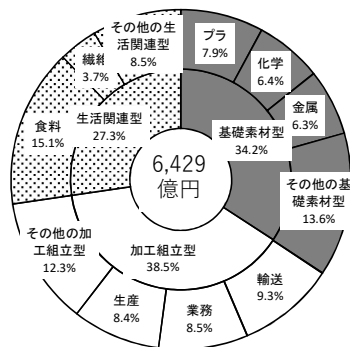
(1) 産業別の状況

平成26年の従業者4人以上の事業所の付加価値額は6,429億円です。産業中分類別の構成比をみると、食品製造業15.1%(969億円)が最も多く、次いで輸送用機械器具製造業9.3%(600億円)、業務用機械器具製造業8.5%(546億円)の順となっています。

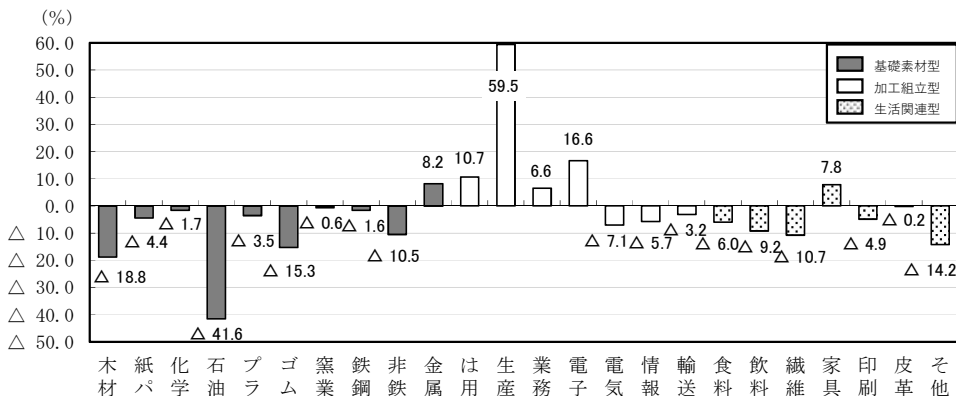
産業類型別の構成比をみると、加工組立型が38.5%(2,475億円)最も多く、次いで基礎素材型34.2%(2,198億円)、生活関連型27.3%(1,757億円)となっています。

前年と比べると、県全体で0.3%減少(△18億円)しました。産業中分類別の増加率については、生産用機械器具製造業(59.5%、202億円)が最も大きく、次いで電子部品・デバイス・電子回路製造業(16.6%、8億円)の順となっています。減少率については、石油製品・石炭製品製造業(△41.6%、△9億円)が最も大きく、次いで、木材・木製品製造業(△18.8%、△29億円)、ゴム製品製造業(△15.3%、△46億円)の順となっています。

第22図 産業中分類別付加価値額の構成比(%) (従業者4人以上の事業所)

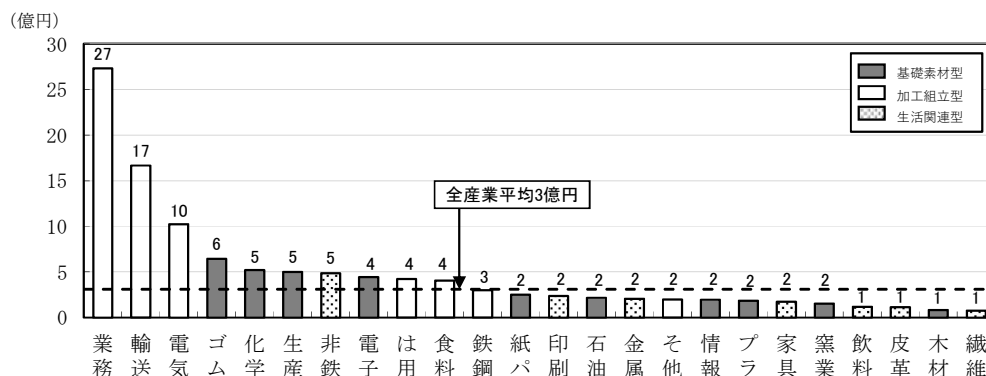


第23図 産業中分類別付加価値額の前年比(%) (従業者4人以上の事業所)



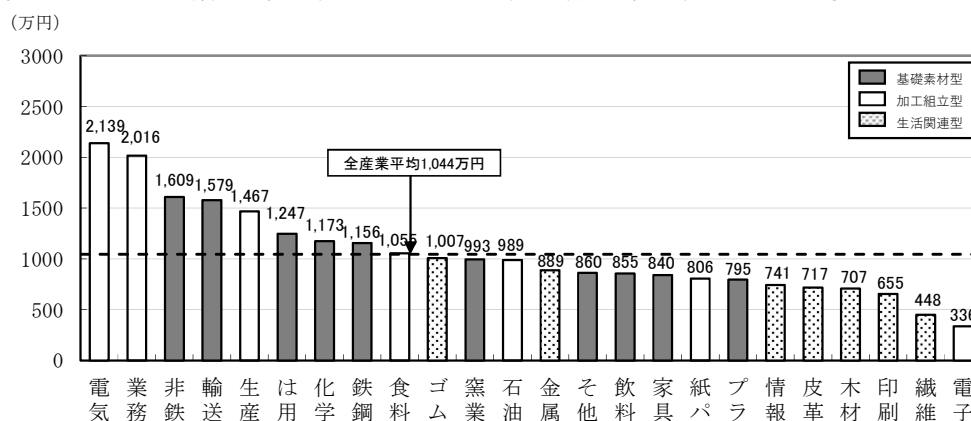
1 事業所当たり付加価値額は全産業平均で3億円です。産業中分類別にみると、業務用機械器具製造業(27億円)が最も多く、次いで輸送用機械器具製造業(17億円)、電気機械器具製造業(10億円)、ゴム製品製造業(6億円)の順となっており、上位3産業は加工組立型が占めています。

第24図 産業中分類別の1事業所当たり付加価値額 (従業者4人以上の事業所)



従業者1人当たり付加価値額は全産業平均で1,044万円です。産業中分類別にみると、電気機械器具製造業(2,139万円)が最も多く、次いで業務用機械器具製造業(2,016万円)、非鉄金属製造業(1,609万円)、輸送用機械器具製品業(1,579万円)の順となっています。

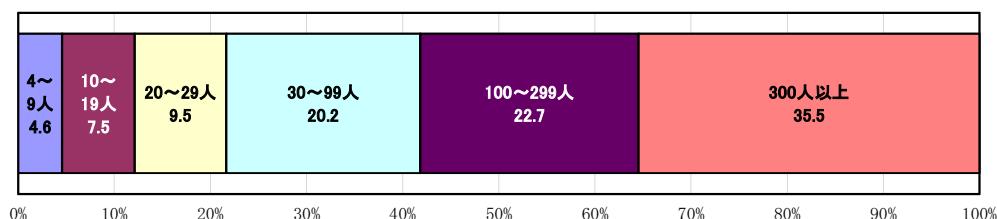
第25図 産業中分類別の従業者1人当たり付加価値額 (従業者4人以上の事業所)



(2) 従業者規模別の状況

従業者規模別付加価値額の構成比をみると、300人以上規模35.5%(2,279億円)が最も多く、次いで100~299人規模22.7%(1,461億円)、30~99人規模20.2%(1,298億円)の順となっています。

第26図 従業者規模別付加価値額の構成比 (%) (従業者4人以上の事業所)



## 8 年末在庫額及び有形固定資産投資総額 (従業員30人以上の事業所)

- \* 年末在庫額は1,240億円で、前年と比べて3.5%増加。
- \* 有形固定資産投資総額は、442億円で、前年と比べて16.9%増加。
- \* 産業別の年末在庫額では、生産用機械器具製造業(163億円)が多い。
- \* 有形固定資産投資総額では、食料品製造業(65億円)が多い。

### (1) 年末在庫額

従業員30人以上の事業所についての年末在庫額は1,240億円で、前年と比べて3.5%増加(42億円)となりました。

産業中分類別の構成比をみると、多い順に生産用機械器具製造業13.2%(163億円)、食料品製造業10.5%(130億円)、プラスチック製品製造業8.3%(103億円)などとなっています。

### (2) 有形固定資産投資総額

従業員30人以上の事業所についての有形固定資産投資総額は442億円で、前年と比べて16.9%増加(64億円)となりました。

産業中分類別の構成比をみると、多い順に食料品製造業14.8%(65億円)、プラスチック製品製造業13.1%(58億円)、生産用機械器具製造業9.5%(42億円)などとなっています。

第1表 年末在庫額の推移  
(従業員30人以上の事業所)

	金額 (万円)	前年比(%)
平成17年末	14,863,265	△3.8
18年末	16,197,179	9.0
19年末	17,271,929	5.6
20年末	17,391,215	0.7
21年末	13,727,378	△21.1
22年末	13,157,981	△4.1
23年末	13,088,266	
24年末	11,998,045	△8.8
25年末	11,978,618	△0.2
26年末	12,396,289	3.5

注1)平成19年において、事業所の補そくを行ったため、前年比については時系列を考慮し、当該補そく事業所を除いた参考値で計算しています。  
注2)平成23年は、平成24年経済センサス-活動調査の数値です。  
注3)平成24年は、平成22年工業と比較しています。

第2表 有形固定資産投資総額の推移  
(従業員30人以上の事業所)

	金額 (万円)	前年比(%)
平成17年	6,952,079	6.6
18年	6,420,171	△7.7
19年	5,239,840	△19.2
20年	6,766,757	29.1
21年	4,065,653	△39.9
22年	3,505,698	△13.8
23年	3,109,146	
24年	3,836,517	9.4
25年	3,777,521	△1.5
26年	4,417,264	16.9

注1)平成19年において、事業所の補そくを行ったため、前年比については時系列を考慮し、当該補そく事業所を除いた参考値で計算しています。  
注2)平成23年は、平成24年経済センサス-活動調査の数値です。  
注3)平成24年は、平成22年工業と比較しています。

第3表 産業中分類別年末在庫額

産業中分類	事業所数	年末在庫額	
		実数(万円)	構成比(%)
食料品製造業	57	1,299,441	10.5%
飲料・たばこ・飼料製造業	2	x	x
繊維工業	41	674,600	5.4%
木材・木製品製造業(家具を除く)	10	410,607	3.3%
家具・装備品製造業	9	77,079	0.6%
パルプ・紙・紙加工品製造業	16	277,862	2.2%
印刷・同関連業	17	312,633	2.5%
化学工業	26	975,904	7.9%
石油製品・石炭製品製造業	1	x	x
プラスチック製品製造業(別掲を除く)	49	1,025,455	8.3%
ゴム製品製造業	12	501,976	4.0%
なめし革・同製品・毛皮製造業	2	x	x
窯業・土石製品製造業	9	110,356	0.9%
鉄鋼業	7	399,086	3.2%
非鉄金属製造業	4	172,116	1.4%
金属製品製造業	37	615,901	5.0%
はん用機械器具製造業	20	724,995	5.8%
生産用機械器具製造業	27	1,631,962	13.2%
業務用機械器具製造業	7	799,854	6.5%
電子部品・デバイス・電子回路製造業	4	x	x
電気機械器具製造業	9	694,176	5.6%
情報通信機械器具製造業	1	x	x
輸送用機械器具製造業	12	665,789	5.4%
その他の製造業	10	371,406	3.0%
計	389	12,396,289	100.0%

第4表 産業中分類別有形固定資産投資総額

産業中分類	事業所数	有形固定資産投資総額	
		実数(万円)	構成比(%)
食料品製造業	57	652,525	14.8%
飲料・たばこ・飼料製造業	2	x	x
繊維工業	41	101,964	2.3%
木材・木製品製造業(家具を除く)	10	51,561	1.2%
家具・装備品製造業	9	79,379	1.8%
パルプ・紙・紙加工品製造業	16	65,253	1.5%
印刷・同関連業	17	168,911	3.8%
化学工業	26	395,565	9.0%
石油製品・石炭製品製造業	1	x	x
プラスチック製品製造業(別掲を除く)	49	577,068	13.1%
ゴム製品製造業	12	326,526	7.4%
なめし革・同製品・毛皮製造業	2	x	x
窯業・土石製品製造業	9	30,557	0.7%
鉄鋼業	7	34,623	0.8%
非鉄金属製造業	4	45,012	1.0%
金属製品製造業	37	288,464	6.5%
はん用機械器具製造業	20	89,210	2.0%
生産用機械器具製造業	27	418,032	9.5%
業務用機械器具製造業	7	249,454	5.6%
電子部品・デバイス・電子回路製造業	4	x	x
電気機械器具製造業	9	95,678	2.2%
情報通信機械器具製造業	1	x	x
輸送用機械器具製造業	12	294,878	6.7%
その他の製造業	10	107,171	2.4%
計	389	4,417,264	100.0%

## 9 市町村別の状況

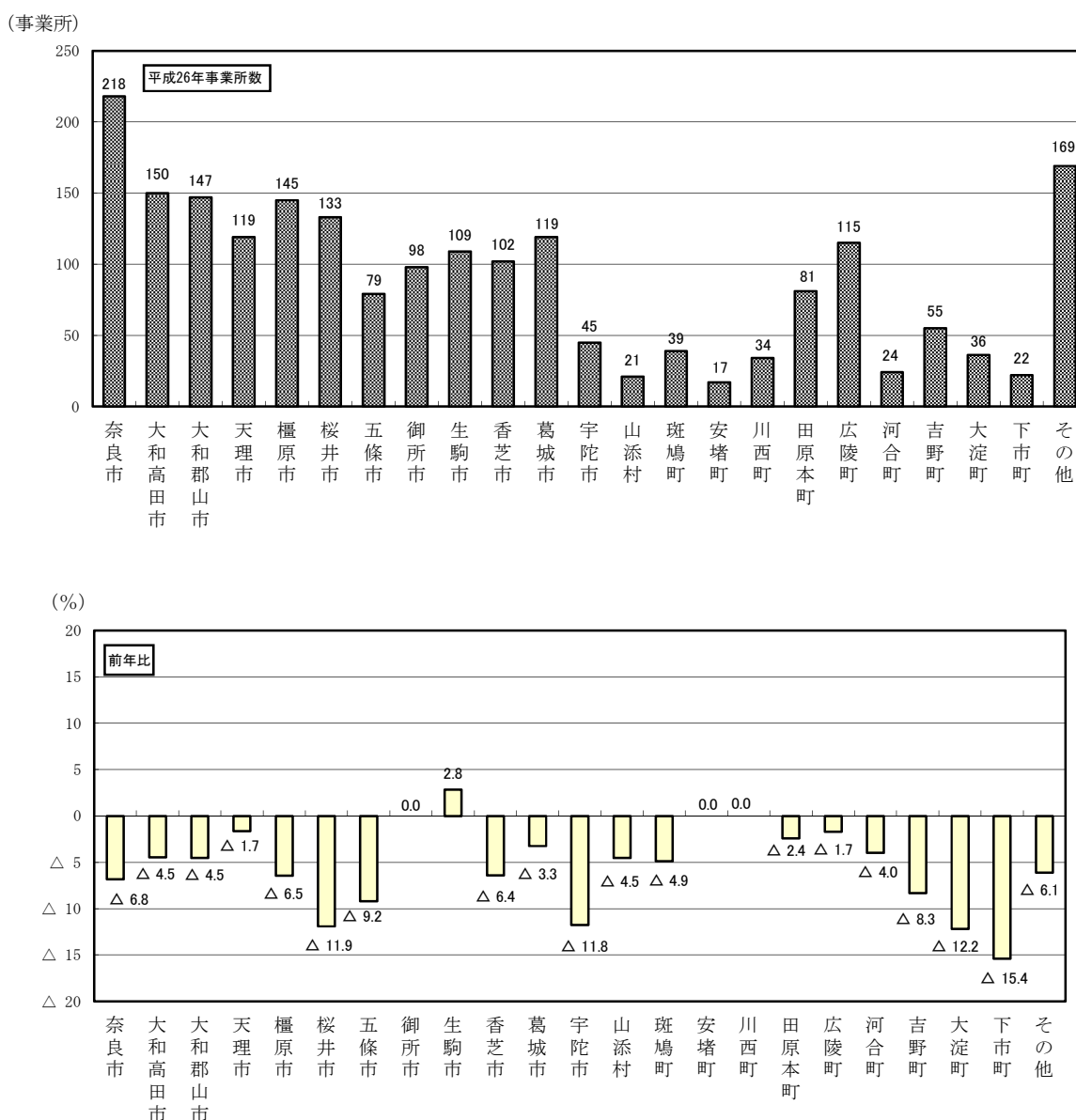
- \* 事業所数は、奈良市、大和高田市、大和郡山市、橿原市の順。
- \* 従業者数は、大和郡山市が群を抜いて多く、次いで橿原市、奈良市の順。
- \* 製造品出荷額等は、大和郡山市、葛城市、橿原市、奈良市の上位4市で過半数を占める。
- \* 付加価値額は、大和郡山市が群を抜いて多く、次いで橿原市、葛城市、奈良市の順。

### (1) 事業所数

事業所数は、奈良市の218事業所(構成比10.5%)が最も多く、次いで大和高田市150事業所(同7.2%)、大和郡山市147事業所(同7.1%)の順となっています。

前年と比べると、5市町村で増加し、26市町村で減少となりました。(8市町村は前年同数)

第27図 主な市町村別の事業所数及び前年比 (従業者4人以上の事業所)



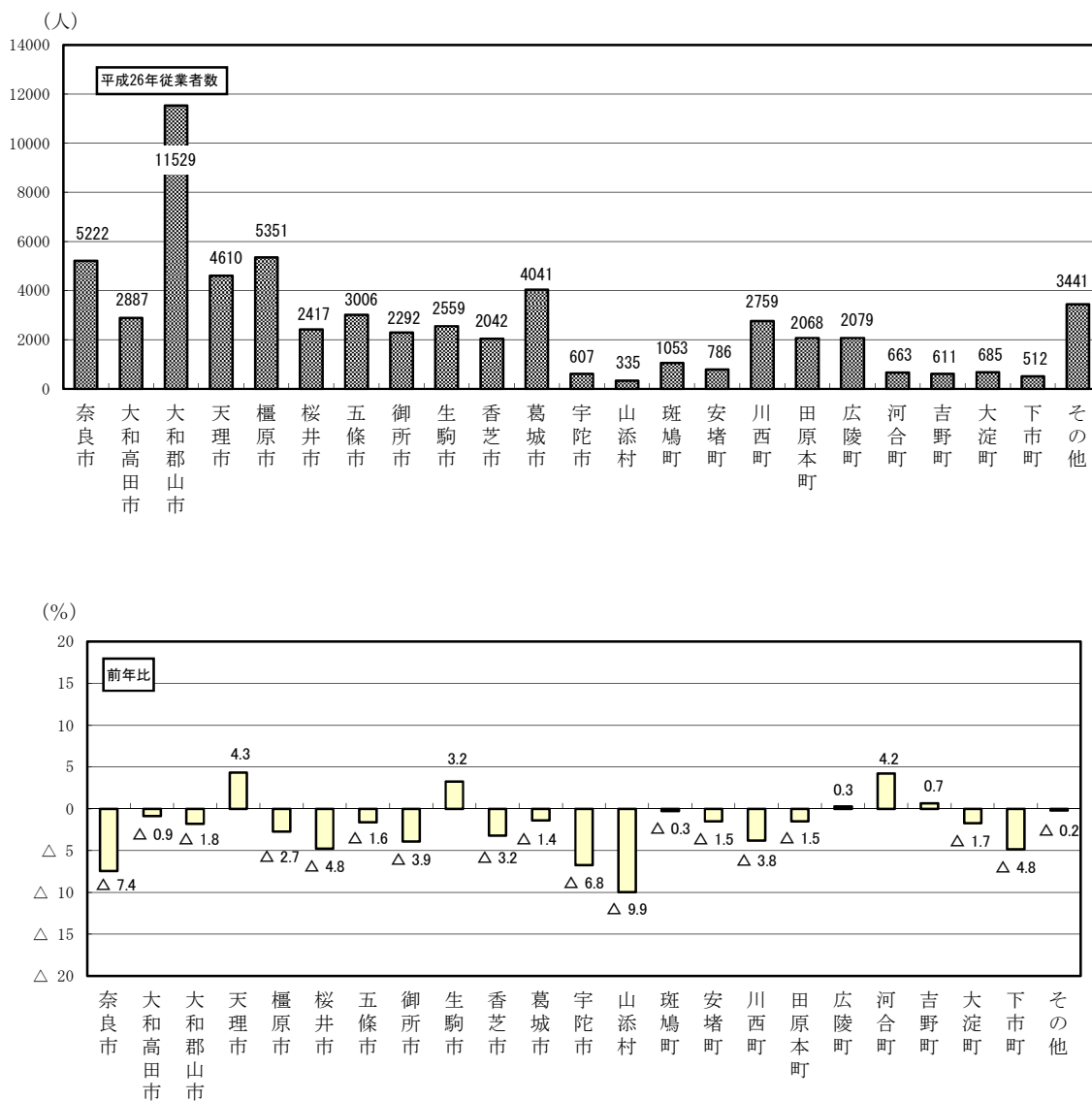


## (2) 従業者数

従業者数は、大和郡山市の11,529人(構成比18.7%)が最も多く、次いで橿原市5,351人(同8.7%)、奈良市5,222人(同8.5%)、天理市4,610人(同7.5%)の順となっています。

前年と比べると、10市町村で増加、26市町村で減少となりました。(3町村は前年同数)

第28図 主な市町村別の従業者数及び前年比 (従業者4人以上の事業所)

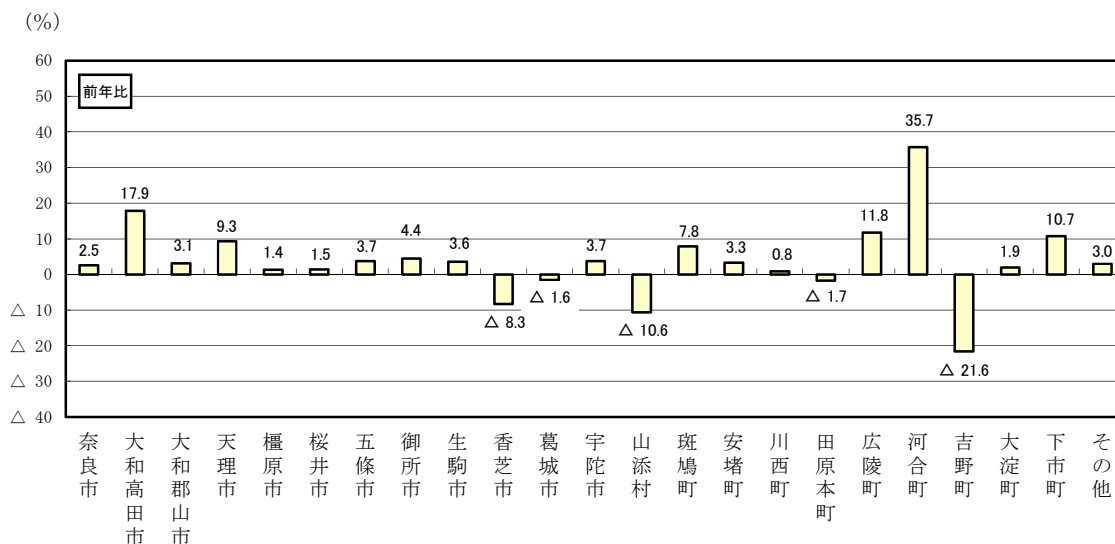
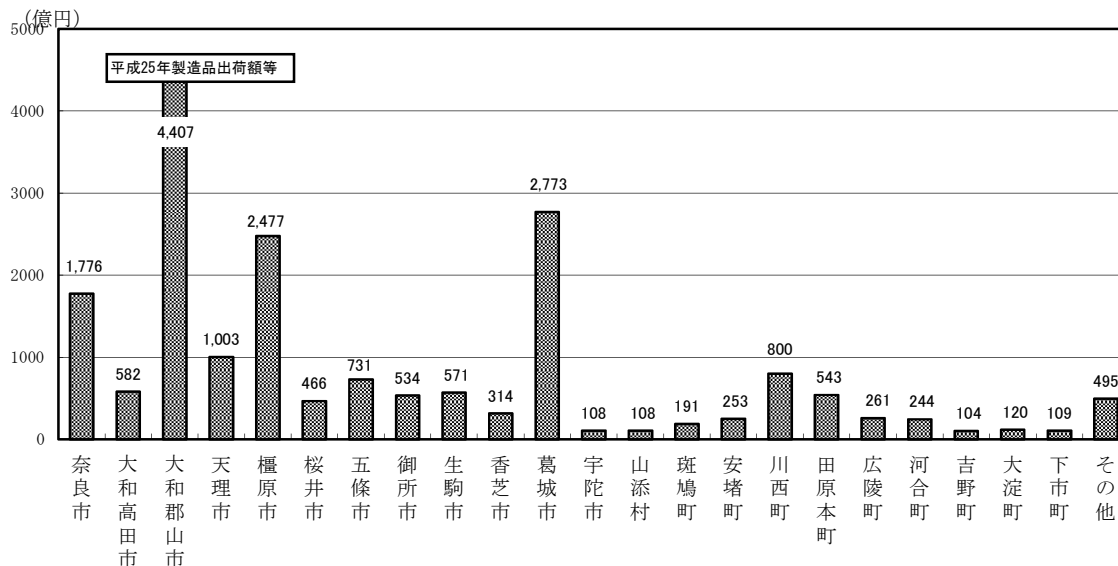


### (3) 製造品出荷額等

製造品出荷額等は、大和郡山市の4,407億円(構成比23.2%)が最も多く、次いで葛城市2,773億円(同14.6%)、橿原市2,477億円(同13.1%)、奈良市1,776億円(同9.4%)の順となっており、上位4市で過半数を占めています。

前年と比べると、25市町村で増加し、14市町村で減少となりました。

第29図 主な市町村別の製造品出荷額等及び前年比(従業者4人以上の事業所)

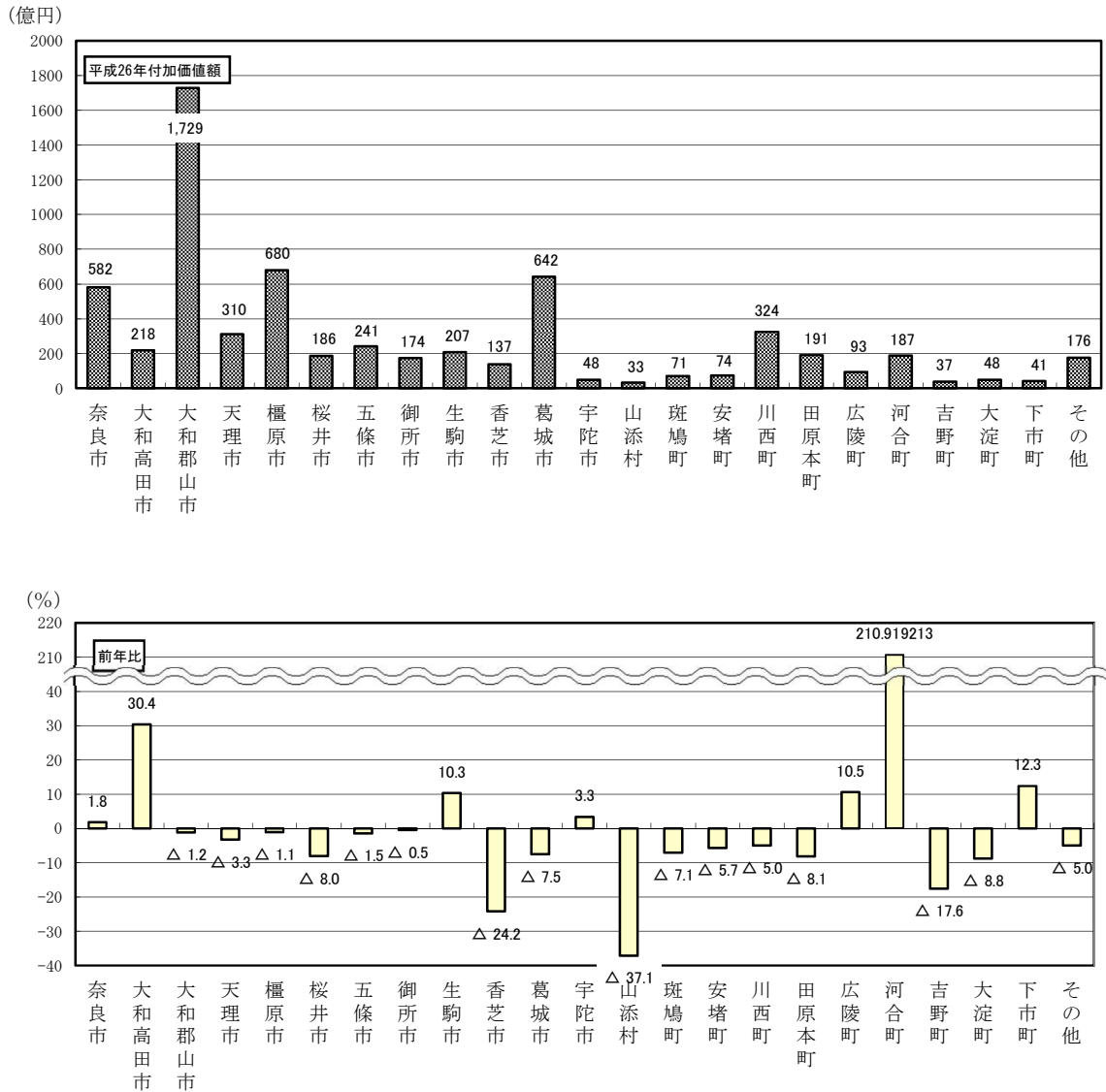


#### (4) 付加価値額

付加価値額は、大和郡山市の1,729億円(構成比26.9%)が最も多く、次いで橿原市680億円(同10.6%)、葛城市642億円(同10.0%)、奈良市582億円(同9.0%)の順となっています。

前年と比べると、15市町村で増加し、24市町村で減少となりました。

第30図 主な市町村別の付加価値額及び前年比 (従業者4人以上の事業所)



# 10 全国における奈良県の状況

(資料：経済産業省「平成26年工業統計」)

「従業者4人以上の事業所で全国シェアが大きい産業」

- \* 事業所数では、木材・木製品製造業(家具を除く)(10位)、なめし革・同製品・毛皮製造業(14位)、プラスチック製品製造業(14位)など。
- \* 製造品出荷額等では、なめし革・同製品・毛皮製造業(14位)、業務用機械器具製造業(15位)、繊維工業(18位)など。
- \* 付加価値額では、なめし革・同製品・毛皮製造業(12位)、業務用機械器具製造業(16位)、ゴム製品製造業(17位)など。

## (1) 主要4指標における奈良県の順位 (従業者4人以上の事業所)

従業者4人以上の事業所をみると、事業所数は32位(2,077事業所)、従業者数は36位(61,555人)、製造品出荷額等は36位(1兆8,969億円)、付加価値額は36位(6,429億円)です。

第5表 主要4指標における上位5都府県 (従業者4人以上の事業所)

全国順位	事業所数			従業者数			製造品出荷額等			付加価値額		
	都道府県	実数	シェア	都道府県	実数(人)	シェア	都道府県	実数(億円)	シェア	都道府県	実数(億円)	シェア
1位	大阪	17,501	8.6%	愛知	795,496	10.7%	愛知	438,313	14.4%	愛知	128,646	13.9%
2位	愛知	16,795	8.3%	大阪	443,634	6.0%	神奈川	177,211	5.8%	静岡	55,262	6.0%
3位	東京	12,156	6.0%	静岡	386,924	5.2%	大阪	165,292	5.4%	大阪	52,360	5.7%
4位	埼玉	11,614	5.7%	埼玉	379,238	5.1%	静岡	160,507	5.3%	神奈川	46,829	5.1%
5位	静岡	9,777	4.8%	兵庫	350,429	4.7%	兵庫	148,884	4.9%	兵庫	46,746	5.1%
奈良県	32位	2,077	1.0%	36位	61,555	0.8%	36位	18,969	0.6%	36位	6,429	0.7%

## (2) 産業別における奈良県の順位 (従業者4人以上の事業所)

従業者4人以上の事業所について産業中分類別にみると、事業所数では木材・木製品製造業(家具を除く)(152事業所)10位、なめし革・同製品・毛皮製造業(21事業所)14位、プラスチック製品製造業(273事業所)14位、繊維工業(313事業所)16位、ゴム製品製造業(40事業所)18位です。

製造品出荷額等では、なめし革・同製品・毛皮製造業(60億円)14位、業務用機械器具製造業(1,595億円)15位、繊維工業(723億円)18位、ゴム製品製造業(591億円)19位です。

付加価値額では、なめし革・同製品・毛皮製造業(24億円)12位、業務用機械器具製造業(546億円)16位、ゴム製品製造業(257億円)17位です。

第6表 産業中分類別の奈良県のシェア・全国順位 (従業者4人以上の事業所)

産業中分類別	事業所数				製造品出荷額等(百万円)				付加価値額(百万円)			
	奈良県	全国計	シェア	順位	奈良県	全国計	シェア	順位	奈良県	全国計	シェア	順位
09 食料品製造業	240	27,115	0.9%	43	228,235	25,936,077	0.9%	34	96,912	8,763,331	1.1%	27
10 飲料・たばこ・飼料製造業	34	4,128	0.8%	42	8,596	9,596,768	0.1%	46	4,037	2,657,848	0.2%	45
11 繊維工業	313	13,430	2.3%	16	72,262	3,822,304	1.9%	18	23,937	1,453,524	1.6%	22
12 木材・木製品製造業(家具を除く)	152	5,547	2.7%	10	41,580	2,520,040	1.6%	24	12,636	748,271	1.7%	24
13 家具・装備品製造業	55	5,550	1.0%	32	27,562	1,915,042	1.4%	25	9,476	721,964	1.3%	24
14 パルプ・紙・紙加工品製造業	69	5,969	1.2%	26	56,782	6,974,353	0.8%	35	17,233	2,061,735	0.8%	35
15 印刷・同関連業	81	11,664	0.7%	34	52,353	5,415,918	1.0%	23	19,061	2,377,280	0.8%	27
16 化学工業	79	4,669	1.7%	22	103,522	28,122,960	0.4%	36	41,059	9,784,412	0.4%	35
17 石油製品・石炭製品製造業	6	931	0.6%	44	10,462	18,659,085	0.1%	27	1,305	667,227	0.2%	33
18 プラスチック製品製造業(別掲を除く)	273	12,936	2.1%	14	146,601	11,532,576	1.3%	24	50,538	4,081,390	1.2%	23
19 ゴム製品製造業	40	2,525	1.6%	18	59,093	3,207,280	1.8%	19	25,702	1,325,546	1.9%	17
20 なめし革・同製品・毛皮製造業	21	1,394	1.5%	14	6,041	347,518	1.7%	14	2,395	123,861	1.9%	12
21 窯業・土石製品製造業	81	9,974	0.8%	44	30,503	7,332,194	0.4%	45	12,394	2,935,412	0.4%	45
22 鉄鋼業	28	4,222	0.7%	34	34,662	19,202,162	0.2%	39	8,390	3,521,662	0.2%	40
23 非鉄金属製造業	21	2,594	0.8%	29	27,027	9,421,951	0.3%	38	10,199	1,923,593	0.5%	33
24 金属製品製造業	196	26,797	0.7%	29	128,952	13,932,776	0.9%	29	40,312	5,387,481	0.7%	29
25 はん用機械器具製造業	62	7,141	0.9%	31	61,411	10,103,055	0.6%	33	26,131	3,764,820	0.7%	32
26 生産用機械器具製造業	108	19,083	0.6%	35	104,851	16,590,604	0.6%	33	54,181	6,141,412	0.9%	30
27 業務用機械器具製造業	20	4,159	0.5%	30	159,475	7,033,631	2.3%	15	54,608	2,730,669	2.0%	16
28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	13	4,267	0.3%	43	15,231	13,817,602	0.1%	44	5,771	4,861,944	0.1%	44
29 電気機械器具製造業	45	8,953	0.5%	38	256,097	17,031,700	1.5%	20	46,042	5,819,008	0.8%	30
30 情報通信機械器具製造業	4	1,501	0.3%	37	1,779	8,627,907	0.0%	40	786	2,175,357	0.0%	40
31 輸送用機械器具製造業	36	10,415	0.3%	36	196,454	60,063,334	0.3%	30	59,979	16,764,156	0.4%	30
32 その他の製造業	100	7,446	1.3%	25	67,350	3,933,151	1.7%	19	19,842	1,496,969	1.3%	22
合 計	2,077	202,410	1.0%	32	1,896,881	305,139,989	0.6%	36	642,926	92,288,871	0.7%	36

注：製造品出荷額等及び付加価値額の順位は、数値が秘匿されている団体以外の団体中の順位。